

響

Hibiki

心と体に やさしくひびく東洋療法



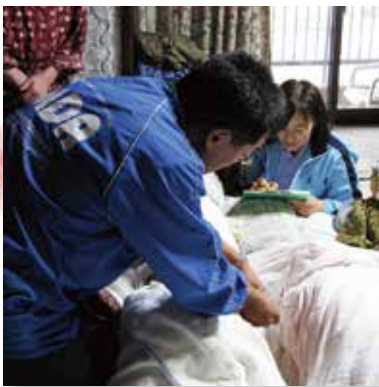
公益社団法人 大阪府鍼灸マッサージ師会
広報誌

Daishinshikai Journal 2016
Hibiki vol.08



世界鍼灸学会連合会学術大会
東京/つくば 2016

美しき鍼灸 — 持続可能なヘルスケアと養生



特集 8

大規模災害における鍼灸支援活動 — AMDA における活動の経験から —

認定特定非営利活動法人AMDA災害鍼灸ネットワーク 代表世話人
帝京平成大学ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授 今井 賢治さん

2016 東洋療法推進大会 in 東京

東洋療法で切り開く健康な未来 ～ 地域から世界へ～

モクサアフリカ ～小さなお灸で世界を変える!～

代表 マーリン・ヤングさん

Acupuncturist Pickup

明治国際医療大学 臨床鍼灸学講座 助教 今枝 美和さん

Column

WFAS東京/つくば 2016と日本鍼灸の課題

明治国際医療大学 鍼灸学部 特任教授 矢野 忠さん

鍼灸マッサージ師の生涯研修会

南港ハピスタ + からだにいいことDAY



発行 公益社団法人 大阪府鍼灸マッサージ師会

大阪市阿倍野区昭和町2-10-5 TEL 06-6624-3331 <http://www.osmk.osaka.jp>



世界鍼灸学会連合会 劉 保延 会長（左側）
本大会会頭の全日本鍼灸学会 後藤修司 会長（右側）



基調講演

鍼灸の臨床プラットフォーム構想とその実践

劉 保延（世界鍼灸学会連合会 会長）

日本鍼灸の形成とこれからの社会における鍼灸の役割

矢野 忠（明治国際医療大学 特任教授）

禅のこころと鍼灸

野田 大燈（公益財団法人喝破道場 理事長）

**日本鍼灸の特徴とその生体調節機構に対する効果
ポリモダル受容器の役割**

川喜田 健司（明治国際医療大学 教授）

持続可能な医療と統合医療・鍼灸への期待

広井 良典（京都大学こころの未来研究センター 教授）

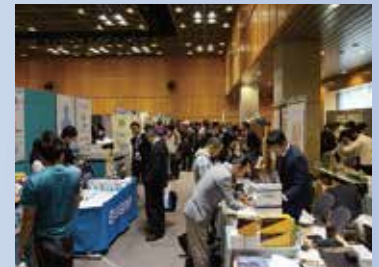
体外受精の補助療法としての鍼治療

— 量的および質的研究から得られた知見

キャロライン・スミス
（ウエスタンシドニー大学・国立補完医学研究所 教授）

被災者に対する鍼灸治療

高橋 徳（ウイスコンシン医科大学教授、
統合医療クリニック徳 院長）





世界鍼灸学会連合会学術大会 東京/つくば 2016

美しき鍼灸 — 持続可能なヘルスケアと養生 —

会期：2016年11月5日(土)～6日(日)

会場：つくば国際会議場

23年ぶりに日本で開催された世界鍼灸学会

「日本鍼灸」は、どこまでアピールできたか

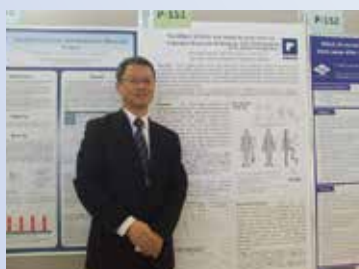
会場となった「つくば国際会議場」は、JAXAの研究施設にも歩いて10分程度と近く、各研究機関の中ほどにある。会場に到着しても外観に掲示物やデコレーションは特になく「ここが会場？」と思いつつ、一歩会場の中に入ると外の静けさとは比にならない賑やかさで、あちらこちらで意見交換の音が聞こえてきた。

参加者数は1,700名を超えており、中国、アメリカ、ヨーロッパなど海外からの参加者の姿も多数見られ、活気と国際色豊かな学会だった。

今回は、講演や研究発表以上に日本で行われている鍼灸治療の実技公開に重点が置かれ、1つのセッションに3題が30分のオムニバス形式となり、合計21の実技が披露された。その中でも日本ではよく見かける「いわゆる『ひびき』を求めない鍼刺激」「スキントッチ療法」「小児鍼」などについて、中国をはじめ海外からの参加者にはどのように映ったのか。

大会全体を通して、鍼灸のエビデンス構築への姿勢では、まだ日本は先進国であると感じた。日本の発表の多くが研究のテーマ設定や作用機序の推測に優れ、自分本位ではない理論の構築から誰からも理解されやすいものであった。

ただ、諸外国の追い上げも激しく、日本の研究者もさらに頑張りたいと感じた。また、海外の発表の中には、日本国内で紹介されていない治療法もあり、「世界は広い・鍼灸は深い」と考えながら、大会を後にした。
(文責・古田)



大規模災害における鍼灸支援活動

— AMDAにおける活動の経験から —

認定特定非営利活動法人AMDA災害鍼灸ネットワーク 代表世話人

帝京平成大学 ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授 今井賢治



はじめに

これまでに各地で大規模災害が発生し、鍼灸による支援活動が広く展開されてきた。東日本大震災以降、組織的な鍼灸支援のあり方が課題ともなり、様々な連携と共同が模索されてきている。各団体や個人ができることを横断的に、強みを生かす支援システム構築が理想ではあるが、現実にはそう簡単ではないかもしれない。しかし、これまで多くの災害が発生し、今後も大規模災害の発生確率は高く、その備えを早急に鍼灸界はしなくてはならない。南海トラフ巨大地震が発生し、東海から西日本にいたる広範囲な地域が被災した場合、鍼灸治療のニーズは高く求められるだろう。しかし、その時、どの団体がどこを支援するのか、マンパワーの確保は、物資の供給はどうするのか、被災地に入る交通とルートの確保は、継続的な活動実施の方策は、などの課題が目前にある。被災地における鍼灸支援活動の経験から問題点と利点を整理し、将来への備えとして現実的な支援の形をシミュレーションすることで、効果的な支援活動が全国規模で展開できるように思われる。そのためには、各団体間

の情報共有とネットワークの構築が重要となる。

筆者は、認定特定非営利活動法人AMDA (The Association of Medical Doctors of Asia) に所属し、各地の災害時における鍼灸支援活動を経験してきた。現在AMDAは南海トラフ地震など将来の災害に備えて医療支援活動を円滑に展開するための準備をしている。

本稿では筆者がAMDAでの活動経験から学んだ、大規模災害時における鍼灸の有用性から今後の課題・展望などを提言させていただく。

AMDAにおける人道支援活動

1. 認定特定非営利活動法人AMDAとは

1984年に岡山に設立され、医師である菅波茂氏が相互扶助の精神に基づき、災害や紛争発生時、医療・保健衛生分野を中心に緊急人道支援活動を展開する医療組織として発足した。世界各国での災害や紛争時に活動している国際的な医療支援団体であり、2006年には国連経済社会理事会総合協議資格を取得した。東日本大震災や熊本大地震の際

は、地震直後から医師や看護師、調整員等を派遣するとともに現地のニーズに合わせて、鍼灸師、助産師、臨床心理士、理学療法士、介護福祉士等による医療チームを編成し支援活動を行った。

帝京平成大学 教授

今井 賢治 Kenji Imai

略 歴

早稲田医療専門学校卒業、放送大学教養学部卒業

明治鍼灸大学 大学院 博士課程修了、博士(鍼灸学)取得

明治鍼灸大学 助手・講師・准教授を経て

2011年4月より 明治国際医療大学 臨床鍼灸学講座 教授

2006-2007年 Duke University (North Carolina, USA), Research fellow

2010年 JAXAきぼう利用フォーラム宇宙鍼灸科学研究会 代表

2011年4月 AMDA緊急医療支援活動派遣鍼灸師

(AMDA災害鍼灸ネットワーク 代表世話人)

2015年4月より 帝京平成大学 ヒューマンケア学部鍼灸学科 教授(大学院教授併任)

現在に至る



2. AMDAの三原則(活動理念)

(図1上)

AMDAの三原則は、1. 相互扶助、2. 差別のない多様性の共存、3. 現地主導主義(ローカルイニシヤティブ)であり、「救える命があればどこまでも」をスローガンとしている。AMDAに所属してこの活動理念を理解したとき、鍼灸界における災害時支援にも大いに役立つものと実感した。

AMDA人道援助の三原則

- 1) 誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある。
(困った時はお互いさま = 相互扶助)
- 2) この気持ちの前には民族、宗教、文化などの壁はない。
(差別しない = 多様性の共存)
- 3) 援助を受ける側にもプライドがある。
(自分たちも人の役に立ちたい。ローカルイニシヤティブ)

行動基準：「ネガティブリスト」

1. 被災者に迷惑を掛けない
2. 医療事故を起こさない
3. 他の派遣者の創意工夫を非難しない

図1 AMDAのポリシー

『相互扶助』は、「困ったときはお互い様」である。自然災害はどこで起こるか分からず、各個人が被災者となる可能性が考えられる。一方的に「役に立ちたい」と思うよりも、「困ったときはお互い様」という相互扶助の精神で活動すると、一方的な支援では無く、ボランティアも被災者の目線に近づけることが判った。「助けに来てくれてありがとう」と避難されている方々に言われるが、「私たちに何かあったときには助け

てくださいね」と困った時はお互い様で良いのだと思った。鍼灸支援に当てはめると、災害地域の被災された鍼灸師は、自身が被災しているにもかかわらず、無償のボランティアで継続的な支援活動を行うのは極めて困難である。近隣の鍼灸団体や組織間でお互い様のフォロワー体制を構築し、その統括を上部組織が行うなどの体制整備が重要だと思ふ。様々な団体間の相互扶助の理解と促進が、鍼灸界をひとつにまとめられ、それが有効な災害時支援に繋がるのではないだろうか。

『差別のない多様性の共存』は鍼灸の世界に極めて重要だと思ふ。伝統的な鍼灸治療の手法は多様であり、多くの流派や治療技術の嗜好があるなかで、それぞれの利点を生かし合う多様性の共存が求められる。

『現地主導主義(ローカルイニシヤティブ)』は、「現地の問題とその解決策は現地の人々が一番良く知っている」という主義である。そしてその問題を協力して解決するため現地のニーズを把握して、必要な支援を行うことである。支援を受ける側にもプライドがあり、一方的な押し付け支援は迷惑となることもある。鍼灸支援に関しては、被災され

た鍼灸師が必要な支援ニーズを遠慮なくあげて、それを相互扶助のもとで周囲が支援するという体制作りが必要だろう。また、被災された鍼灸師の復興支援も重要である。被災鍼灸師が復興することで、被災地において安定した鍼灸治療の提供ができるからである。災害時に発行される免除証明や医師による同意書の簡素化など、東日本大震災時の保険システムの経験を最大限活用することが、被災地の鍼灸復興につながることを想定し、備える必要がある。

3. AMDAの行動基準(ネガティブリスト) (図1下)

通常の社会生活の行動基準においては、○○○リストのように「行うべきこと」を基準とすることが多い。一方、AMDAの緊急救援活動においては「これだけはしてはいけない」ネガティブな事項を挙げ、逆に、それ以外のことならば何をしても良いという、「ネガティブリスト」を行動基準としている。その内容は、
(1) 被災者に迷惑をかけない。
(2) 医療事故を起こさない。
(3) 他の派遣者の創意工夫を非難しない、
という3項目である。

ボランティア活動を行う際は、個々に使命感を持ち、「何かをしなれば」、「何かをしてあげよう」というポジティブな行動から「・・・をすべきだ」という規範ができることがあるかもしれない。しかしボランティアのポジティブな行動が被災者の迷惑になったり、押し付けの善意になってはならない。それらを含めて「被災者に迷惑をかけない」という事項があるのだと理解している。

また「医療事故を起こさない」も重要である。鍼灸治療は気胸や熱傷といった過誤を起こすリスクがある。また、災害後には衛生環境が十分で無い中で鍼灸治療を行うこともあり、日常の施術よりも感染リスクは高い状況といえる。また、派遣者が施術中に自身に鍼を誤って刺してしまう過誤も想定される。避難されている方々に鍼治療をする際、多くの場合、詳細な既往歴はわからないまま様々な苦痛の除去のために鍼治療を行うこととなる。感染症の有無など不明瞭なまま鍼治療を行うため、施術者の誤刺は絶対にあってはならないものである。誤刺の発生は片手挿管によるものが多いため、AMDA鍼灸活動ではデイスボーザブル単回使用鍼を用いてその対処としている。

「他の派遣者の創意工夫を非難しない」は、数日単位でボランティア派遣者はローテーションされるなかで、様々なスキルや想いを持った方々と一緒に良い活動をするのに必要な行動基準と言える。刻一刻変化する災害現場では、関わる人たちの創意や工夫の中で活動が遂行される。それぞれの創意工夫を持ち寄り昇華させれば強力なチームワークができることとなる。AMDAでは短い期間でローテーションをしていく派遣者が力を発揮し、間もなくチームの一員に溶け込む姿を多く見えた。

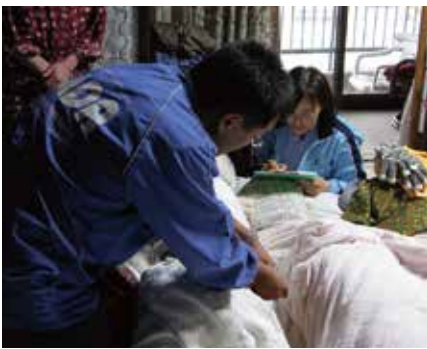
AMDAにおける鍼灸支援活動について

災害時における医療支援の特徴として、時間が経過するに伴い被災者の医療ニーズがキユア(cure)からケア(Care)に変化すること、そして、どのような場所でも鍼灸治療は活動が可能という強みを生かせば、災害時の医療活動の一翼に鍼灸治療は大いに応用され得るもので、AMDAはその導入を実践してきた。以下に東日本大震災から熊本地震における鍼灸支援活動の概要を記す。

1. 東日本大震災における鍼灸治療(平成23年4月上旬より)

被災地における鍼灸治療の対象症状は、各種の慢性疼痛など、いわゆる身体的・精神的ストレスに由来するものが殆どであった。震災直後の移動や片づけ、水汲み、炊き出し、環境の変化などで疲労し、それに伴い、腰痛や肩こり、関節痛、頭痛などの慢性疼痛が多く見受けられた。さらに不眠や不安感を伴う患者も少なくなかった。避難所生活でのストレスフルな状況から様々な慢性疼痛やストレスが時間経過とともに出現するようになり、そのマネージメントの一手段として、鍼灸治療の意義が存在することが確認できた。

AMDAは長期的な医療支援活動



東日本大震災(大槌町)での活動

の中で、被災地における復興を視野に入れ、地元の鍼灸師との連携と支援を行うのが活動の理念であり、地元の医師と鍼灸師、行政が連携し、鍼灸治療の療養費を最大限に活用してゆく方針を東日本大震災後の大槌町および石巻市雄勝町で実現した。このようなAMDAの取り組みは、災害時の鍼灸治療支援のあり方や、地元鍼灸師の復興支援のあり方に関する大きな経験であった。

2. 京都府福知山市広域浸水被害における鍼灸活動

平成26年8月17日、福知山市中心エリアは大きな浸水と土砂被害を受けた。浸水被害を受けた保育園では泥の掃き出しや荷物の運搬が行われ



福知山市浸水被害での活動

地元師会（日本鍼灸師会と全日本鍼灸マッサージ師会）による施術ボランティアが計画されていたため、それぞれと連絡しAMDAからの支援活動を申し入れた。地元の師会が活動し、被災地の支援をカバーしているなかでは、地元のニーズを把握

3. 広島土砂災害における鍼灸活動

被災後6日の時点で周囲の病院、鍼灸院の多くが開院しており、地域における医療および鍼灸施術環境に不備はないことを確認したため、ボランティアによる鍼灸活動を終了した。被災6日の間に5名の治療を行ったに過ぎないが、緊急時において地元ニーズに応え、症状の改善に貢献できたのは、規模は小さいながらも意義があったと言える。



広島土砂災害での活動



し、ローカルユニシティの原則の基、平成26年8月29～31日にかけて後方支援としてAMDAは活動を行った。各師会の活動に参加させていただき、鍼灸治療を行った。この活動時にAMDAは鍼灸界におけるネットワーク構築が、将来的な災害時の鍼灸活動を円滑にするはずであるとして、『AMDA災害鍼灸ネットワーク』を設置した。翌年には広島県鍼灸師会が開催した講演会において、広島土砂災害時における鍼灸活動の意見交換と総括に参加



救護室での鍼灸治療



広安小学校の救護室(保健室)での活動



スタッフミーティング



テント内での鍼灸治療



総合運動公園に設置されたテント村

熊本地震災害におけるAMDAの鍼灸支援活動

4. 熊本地震(益城町)における鍼灸活動

平成28年4月25日より熊本地震における鍼灸支援活動をAMDAは開始した。鍼灸師の派遣は5月25日までとなり、延べ29名が全国から参加した。鍼灸支援活動は益城町の広安小学校救護室を中心として行った。救護

室内で鍼灸治療を行ったため、医療スタッフと連携した患者さんへの対応ができたことは統合医療の実践となった。尚、灸治療は緊急時の救護所内では行わなかった。また、益城町総合運動公園に設置されたテント村や特別養護老人ホーム「シルバードアさくら樹」でも活動を行った。広安小学校の再開に伴い体育館が避難所となった以降は、体育倉庫を清掃し、救護室として3台のベッドを設置して鍼灸治療を継続した。鍼灸治療の対象となった症状は、①

腰痛、②頸肩部痛（肩こり）、③膝痛などの慢性疼痛が多く見られた。その他には、頭痛、疲労感・倦怠感、不眠、便通異常、排尿障害等も見受けられた。9割以上が初めて鍼治療を受けるという方々であった。

ろ、益城町の鍼灸院は全て震災のために閉院していた。益城町の鍼灸師からは「活動を見守っている」との言葉をいただく中での活動となった。当初から益城町近郊の熊本に在住する鍼灸師がAMDA現地雇用として、派遣者とともに活動を行った。



特別養護老人ホーム



広安小学校体育倉庫を救護室として整備



鍼灸支援活動スタッフ



鍼治療を行う筆者

熊本地震災害におけるAMDAの鍼灸支援活動

AMDAは「災害鍼灸ネットワーク」を設置し、将来的な大規模災害を視野に入れた、より幅広い鍼灸活動を展開する方向に向かっている。各個人や団体間のネットワークを固め、鍼灸界として「困ったときはお互いさま」で連携すれば、大規模災害時の鍼灸支援活動はより円滑に遂行されることだろう。

AMDAは「災害鍼灸ネットワーク」を設置し、将来的な大規模災害を視野に入れた、より幅広い鍼灸活動を展開する方向に向かっている。各個人や団体間のネットワークを固め、鍼灸界として「困ったときはお互いさま」で連携すれば、大規模災害時の鍼灸支援活動はより円滑に遂行されることだろう。

AMDAは大規模災害において、鍼灸師が担うべく体制作りが重要であるため、平成25年9月から災害鍼灸チーム育成プログラムを開始した。初回は4名の参加であったが、翌年の第2回（平成26年9月開催）は15名、本年開催では28名の参加となり、年々参加者が多くなっている。

まとめ

熊本鍼灸チームは、益城町の避難所が閉鎖される10月末まで活動を行った。

災害支援活動体制の構築へ

～（公社）全日本鍼灸マッサージ師会が都道府県師会へ周知～

熊本・大分地震では、全日本鍼灸マッサージ師会、日本鍼灸師会、全日本鍼灸学会が合同で支援活動を行うなど、団体間を超えた協力体制で災害支援活動が行われました。

今後、いつ、どこで発生するか分からない自然災害に対し、急務となっている災害支援活動体制の構築へ向け、全日本鍼灸マッサージ師会災害対策委員会は「危機管理基本規定」「災害支援鍼灸マッサージ師要綱」「災害支援マニュアル」を作成。各都道府県師会 災害対策委員会の設置を周知し、地域との連携が円滑になるよう取り組んでいます。



第15回 東洋療法推進大会in東京

東洋療法で切り開く健康な未来

～ 地域から世界へ～

9月22～23日、東京の品川プリンスホテルにて、第15回東洋療法推進大会in東京が開催された。全国の鍼灸マッサージ師の資質向上のため、また一般公開講座にて国民へ健康や医療の情報を提供する大会となっており、両日で延べ1,000名の参加者を得て、盛大に開催された。

記念講演①は、帯津三敬病院名誉院長 帯津良一氏による「東洋療法と養生～『粋な生き方』」。「粋な生き方」とは、ときめきを感じて生きること。毎日、今日が最後の日だと思うことで、晩ご飯は「最後の晚餐」となり、背すじがピンと伸び食卓に並べられたメニューの一つひとつが輝いて見え、感謝の気持ち喜びでいっぱいになる。「攻めの養生」である帯津氏の養生法は、そのまま「凜として老いる」生き方の哲学ともいえる。記念講演②は、2004年アテネオリンピック女子ハンマー投げ日本代表 室伏由佳氏による「スポーツと身体との対話～コンディションを把握する大切さ～」。アスリートとして活躍された華々しい活躍の裏には、スポーツ傷害に加え、婦人科疾患や精神的ストレスなどもあり、一般には知られていない苦悩の体験談を紹介。過酷な環境下、ギリギリの戦いをしている選手のコンディション調整など、「選手には医療従事者との関わりと心身両面からサポートする専門家が必要」と強調され、鍼灸マッサージ師にとって2020年東京オリンピック・パラリンピックも視野に入れた進むべき方向性が啓示されたような素晴らしい講演でした。その他、推進大会では、学術と保険推進、無免許対策、災害対策の各委員会による講座が開かれ、会場とのディスカッションが行われた。

2017年度は京都にて開催を予定している。



帯津三敬病院
名誉院長
帯津良一氏



アテネオリンピック
女子ハンマー投げ日本代表
室伏由佳氏



保健医療学領域の高度な
医療専門職業人へ。

大学院 保健医療学研究科
保健医療学専攻 修士課程



鍼灸に関する信頼性の高い
最新の情報を配信。

森ノ宮医療大学
鍼灸情報センター (MUMSAIC)



想いのすべてを、医療の力に。
森ノ宮医療大学

0120-68-8908

〒559-8611
大阪市住之江区南港北1-26-16
TEL: 06-6616-6911

[保健医療学部] 2016年4月 医療系総合大学へ
■ 鍼灸学科 ■ 看護学科 ■ 理学療法学科
■ 作業療法学科 <NEW> ■ 臨床検査学科 <NEW>

[大学院] 保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程

[専攻科] 助産学専攻科 [1年課程] <NEW>

<NEW>の学科は2016年4月開設

Access 大阪市営地下鉄・中央線「コスモスクエア」駅より徒歩1分 大阪主要ターミナル「大阪・なんば・天王寺」各駅から30分以内!



MOXAfrICA

モクサアフリカ

小さなお灸で世界を変える！

モクサアフリカとは

モクサアフリカはイギリスで登録されているチャリティ団体。アフリカ・サハラ南部で広まりつつある肺結核、薬剤耐性結核、HIV/AIDSとの複合感染などの戦いを助けるため、日本式のお灸を投薬治療の補助療法として、また、医療資源の乏しい世界中の国々や地域で、代替療法として利用する可能性を研究している。

今回、モクサアフリカ代表の英国鍼灸師マーリン・ヤング氏が来日し、モクサアフリカがサポートしてきたウガンダの臨床試験と今後の活動計画について、日本の各地で講演が行



通訳の伊田屋ゆき氏（左）と マーリン・ヤング氏（右）

われた。

日本式の直接灸に着目した理由

英国で学ぶ鍼灸教育は中医学がベースとなっているが、中でも欧米に伝わる鍼灸に「灸」の教育は殆どなく、「鍼」acupuncture に関する教育が中心となっている。ヤング氏も中国式の鍼灸を学んでいたが、灸に関する古代文献の研究や日本の鍼灸に触れる機会が増える中で、結核の治療に日本式の灸法が用いられていたことや、日本の医師である原志免太郎博士の結核に対する灸治療の研究にたどり着いた。

原志免太郎博士が1929年に出版した論文には、意図的に結核に感染させ、灸治療をした場合としなかった場合のモルモットの回復傾向が詳細に記されている。その数十年後、抗結核薬が開発されることとなるが、それ以降、結核治療に灸を使用することについての研究は進展することがなくなつた。しかし、動物とヒトの免疫系に対する灸の効果に関する研究は盛んに行われている。

一方、現在世界人口の32%が潜在的に結核に感染しているとWHOが公表している中で、特に低・中所得の国において、結核の脅威が増大している。その原因にHIV/AIDSとの重複感染があり、結核感染者140万人、HIV感染者80万人の中で、40万人が重複感染を起こし、アフリカではHIV感染者の69%が結核で死亡している。エボラ出血熱が12ヶ月で終息し1万1千人が死亡したと言われているが、結核は毎日5千人死亡しており、2日でエボラの死者数と並ぶ。さらなる問題は、結核対策が機能していない地域では、薬剤耐性結核が脅威となっている。

ヤング氏は、この深刻な問題である薬剤耐性の症例に対し研究を進めていく予定であったが、倫理上の複雑な理由により除外することとなり、

■ マーリン・ヤング氏

英国鍼灸師、モクサアフリカ代表理事。

長年にわたり日本鍼灸を研究。2008年にモクサアフリカ慈善団体を設立し、日本式のお灸による結核治療の有効性を体系的に調査。英バーミンガム州で鍼灸治療。

■ 伊田屋ゆき氏

英国鍼灸漢方師。米カリフォルニア州にて漢方・東洋医学博士号を取得。モクサアフリカ唯一の日本人理事。

M-Test USAの責任者として世界各国でM-Test及びお灸の講師を務める。現在は英デボン州で鍼灸治療。



活動の様子（モクサアフリカ ホームページより）



一般の結核患者を対象に日本式の直接灸を用いた調査を行なった。

ウガンダにおける

ランダム化比較試験

WHOが定めた「カテゴリーII」の8カ月間にわたる多剤化学療法の対象となった薬剤感受性の患者に診られる臨床効果を判定基準に基づいて調査。180名の患者を無作為に2グループへ分け、そのうち90名には抗生物質のみ、もう一つの90名のグループには抗生物質と灸治療の併用を行った。この2つのグループには、偶然にもHIV重複感染者が24名／

25名とほぼ同等に振り分けられていた。

日本と異なり、医療が十分に供給できない環境の国々では、結核と診断された患者を治療期間中隔離することは困難である。そのため、灸治療の方法は、非常にシンプルな方法を採用し、両足の足三里（ST36）に毎日7壮ずつ自分でお灸を据えるという手法を用いた。これは複雑な方法による患者離脱を防止するとともに、原志免太郎博士が取った手法の引用によるものである。

データは、喀痰検査、血清学的検査、免疫学的検査、X線検査を定期的に収集し別々に分析。結果、抗生物質のみの治療群と灸治療の併用群では、喀痰陰性化に優位差が認められた。特にHIVを重複していない結核患者においては、開始1カ月目に大きな差が表れていたことがスライドで示された。また、CD4陽性T細胞の増加においても、灸治療併用との優位差が認められた。

今後の展望と活動

世界中で抗生物質と薬剤耐性の問題が深刻化する中で、直接灸が、大きい副作用もなく免疫細胞を活性化

することを示すRCTの結果は、今後、施灸部位を加えることにより、さらに優位に影響を及ぼす可能性を示唆している。結核は、多剤耐性になるにつれ医療費が高額になり、治療期間も長期化することから、比較的安価で安全な灸治療の併用は、受け入れやすい。

ヤング氏によると、世界各地で講演する中で、「灸」に馴染みの少ない西欧諸国より、アジアや東南アジア圏での反応が高く、現在、北朝鮮の赤十字から活動の依頼があるという。本活動が今後さらさらに広がることを期待したい。

モクサアフリカは、
善意の募金で活動を行っています。
3千円の募金で、
一人の患者さんの1年分のお灸代になります。

詳しくは、

モクサアフリカジャパン
<http://moxafrica-japan.strikingly.com/>

公益社団法人 大阪府鍼灸マッサージ師会 平成29年1月 生涯研修会

■ 日時 平成29年1月29日（日）12:30～17:20

第1講座 「不妊治療のカウンセリング」 (2単位)

講師：漢方の野崎薬局鍼灸院 野崎 利晃

第2講座 「妊孕性を上げるための基礎知識」 (2単位)

講師：漢方の野崎薬局鍼灸院 野崎 利晃

第3講座 「子育てと地域社会」 (2単位) 講師：(一社)大阪府助産師会 産前産後ケアセンター センター長 大平 純子

■ 会場 大阪府鍼灸マッサージ会館3階大ホール

■ 参加費 2,000円 (資料代含む)

■ お問合せ 大阪府鍼灸マッサージ師会事務局 TEL 06-6624-3331

臨床と教育分野ではたらく
鍼灸師の活動をピックアップ



明治国際医療大学 臨床鍼灸学講座
助教 今枝美和さん

スタンダードな治療に

医療としての鍼灸を発展させたい

整形領域を専門に臨床研究している

女性鍼灸師 今枝美和さんをインタビュー

鍼灸師をめざしたきっかけは

学生の頃、バスケットボールの試合中に前距腓靭帯を断裂した際、リハビリをしても痛みがなかなか治まらなかったところに、初めて鍼灸治療を受けて、劇的に痛みが楽になったことが鍼灸に興味を持ったきっかけです。

どのような研究をされていますか

臨床に繋がる基礎研究として、アキレス腱断裂後の治療過程に及ぼす鍼通電刺激の影響について調査しています。この研究は、厚生労働科学研究費の助成を受けており、現在は特に、アキレス腱断裂後に度々起こる、再断裂に対する予防的介入とし

ての鍼の応用を視野に入れて、断裂後の長期的な経過観察を行っているところなんです。通電刺激の検討には直流鍼通電を用いていますが、そのベイスには、私の指導教授による研究で、末梢神経の再生に対する直流鍼通電の効果や、その後、私が任された骨癒合に対する直流鍼通電の良好なデータが得られている事実あり、これらの結果を基に、腱修復に対しても検討を進めています。また、頸椎疾患による上肢症状が、鍼治療に



より緩和する症例は多くありますが、その効果発現機序として、末梢神経の血流変化が関与している可能性が示唆されていることから、その裏付けを取るための検証も行っています。臨床研究としては、運動器系の鍼灸の研究において、まだまだRCTが少ない肩関節疾患に関して、現在、大学院生を中心にデータを取っています。腰、頸、膝などの部位別、さらには疾患ごとに研究を集積し、系統立てて進めていくことで、運動器系の鍼灸の発展につながっていくと考えています。

これまでの研究の中で、大学院生の時に行った、RCTによる鍼治療と薬物治療の臨床効果の検証で、鍼の方がより高い効果を示したことは、今でもとても印象に残っています。



健康で気を使っていることは



特に気を使っていることはありませんが、美味しいものを楽しく食べることが健康の源になっているのかもしれませんが。睡眠時間は短くてもぐっすり眠り、休みの日は結構、アクティブに過ごします。

この仕事をする上で、遊び心や感性を磨くことも大事だと考えています。時々、ゼミ生と釣りに行きますが、竿先にアタリを感じる手の感覚と、鍼を刺入した際に手に感じる「得気」は、意外に通じるものがあったりして面白いですね。

学生・業界に対して思うこと

学生にはこの仕事の面白さを感じて、長く続けて欲しいと思います。そして、鍼灸という仕事にプライド

を持つてほしい。4年間の学生生活だけでは成しえないと思いますが、経験を積み重ねて、そう思えるところまでたどり着いてほしいと思います。その将来のためのベース作りとして、日々の教育の中では、臨床での鍼灸の魅力について伝えることを心がけています。

業界全体としては、女性から見ても、男性から見ても、鍼灸が魅力的な職業になって欲しいです。鍼灸師が、鍼灸は医療としてかなり役立つと感じている一方で、たくさんある医療職種の中に、鍼灸師を思い浮かべる人はまだまだ少ないと思います。医療分野において鍼灸がスタンダードな選択肢の一つとして、魅力的な職種として、認知されるように、人材が増えて欲しいと願っています。



明治国際医療大学大学院
鍼灸学研究科鍼灸学専攻(修士課程)
通信教育課程

働きながら、
大学院教育が
受けられる。

1. eラーニングでのオンライン学修
 2. 大学施設での充実したスクーリング
 3. 最長4年間の長期履修制度(通常2年間)
- ※授業料は、履修期間に応じ区分します。

修了後

学位 + 教員資格

修士(鍼灸学) 鍼灸専門学校の教員資格

Point1 専門学校等卒業者への入学資格審査

専門学校・短大を卒業し、鍼灸に関する実務経験を3年以上(通学制は2年以上)有する方には、個別の入学資格審査をもって入学資格を認めています。

専門学校・短期大学の
出身者

鍼灸に関する
3年以上の実務経験

個別の入学資格審査により
入学資格を認定

Point2 通信教育ならではの多様なスクーリングモデル

定定型

第3土・日曜日×8回/年

集中型

夏季・冬季の集中授業

フレキシブル型

指導教員との相談で
不定期に実施

※学校法人明治東洋医学院の設置する学校の出身者は、入学金を減免します。

明治国際医療大学

鍼灸学部【鍼灸学科】 保健医療学部【柔道整復学科】看護学部【看護学科】 大学院【鍼灸学研究科】

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 交通: JR京都駅より山陰本線「鍼灸大学前」駅下車すぐ

TEL 0771-72-1188 URL www.meiji-u.au.jp



2016年度 生涯研修会

～ 大阪臨床整形外科医会より整形外科領域の講演 ～

2016年度の生涯研修会は、後援の大阪府医師会より、整形外科領域について2題講演いただいた。8月は、大阪臨床整形外科医会推薦、貴島病院本院顧問でダイナミックスポーツ医学研究所所長 大久保 衛先生による講演「スポーツ外傷・障害についてースポーツ整形外科医の伝えたいことー」。スポーツの現場で頻度の高い、腰、膝、肩、関節、下腿、足関節などの部位別の外傷・障害について実例を紹介。保存療法におけるスポーツ鍼灸の留意事項を指摘され、画像診断を含めた正確な診断が大前提であること、専門医との連携を提唱された。また、保存療法やリハビリテーションの経過中の治療だけでなく、コンディショニングの一手段として、鍼灸が大いに期待できる分野であると推奨された。

10月は、(独法) 国立病院機構大阪医療センター整形外科・脊椎外科 長本行隆先生による「脊椎疾患の診察と治療」について。多くの画像所見や手術例などを交えた解説は非常に分かりやすい内容で、脊椎疾患や脊椎手術後症例に対し、鍼灸マッサージ施術を行う際に注意しなければならないことについて、具体例を紹介しながら解説いただいた。

次年度も、大阪府鍼灸マッサージ師会の生涯研修会は、引き続き大阪府医師会に協力を依頼し、整形外科領域を含めた内容で開催を予定しています。



ダイナミックスポーツ医学研究所 所長
整形外科医 大久保 衛先生



(独法) 国立病院機構大阪医療センター
整形外科医 長本 行隆先生

保健医療分野での
高度な専門的知識と技能を
持った医療人と研究者を
養成します。



関西医療大学 大学院

大学院

●保健医療学研究科 (修士課程)

大学・保健医療学部

●理学療法学科

●はり灸・スポーツトレーナー学科

●臨床検査学科

●ヘルスプロモーション整備学科

大学・保健看護学部

●保健看護学科

〒590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉2-11-1

TEL 072-453-8251

E-mail info@kansai.ac.jp

<http://www.kansai.ac.jp>

WFAS東京/つくば2016 と日本鍼灸の課題



矢野 忠

明治東洋医学院専門学校 教員養成学科
明治国際医療大学 鍼灸学部

つくば国際会議場において世界鍼灸学会連合会学術大会 東京/つくば2016 (以降、WFASと表記) が、「美しき鍼灸－持続可能なヘルスケアと養生」のテーマのもと開催された。参加人数は1732人(参加国32ヵ国、外国人約300人)と予想を大きく上回り、WFASは大盛況であった。その理由はAll Japan体制を組織して臨んだことによるものと思われる。

何故、大会テーマを「美しき鍼灸」としたのか。それは、医学・医療がサイエンスであり、アートであるとの視点に立ったことによる。とかく医療は科学であるとされてきた。多くの先進国はサイエンスとしての医療を推し進めてきたが、高齢化が進むにつれて疾病構造は急性疾患から慢性疾患へと大きく変容し、サイエンスとしての医療の有効性は相対的に低下し、ケアとしての医学・医療が必要とされるようになってきた。こうした状況から伝統医療を取り込んだ統合医療が台頭してきたことは必然的である。

鍼灸医療は、本来的にケアとしての医療である。ケアの本質は共感と思いやりであり、そのことを基底として内在性治癒力を効率的に活用する医療が鍼灸である。その内在性治癒力を活用する手法は、決して一つではなく多岐にわたる。その多様性が各国固有の伝統医療を産み出したものと思われる。

日本鍼灸の特質は、一つではなく幾つかの異なる理論に基づく鍼灸で構成されている。歴史的には李朱医学、傷寒論系医学、蘭方医学、近代西洋医学の影響を受けつつ、日本の風土と日本人の感性により補完融合しながら多角的な鍼灸を形成してきた。それが現代の日本鍼灸である。その日本の鍼灸を諸外



国の参加者に知ってもらうために多くの実技セッションが企画された。まさに「一見は百聞に如かず」をもって日本鍼灸を発信した。すなわち多角的な鍼灸の総体こそが日本鍼灸の特質であることをアピールした。まさに本大会の最大のポイントであったが、外国の人には日本鍼灸はバラバラで日本固有の鍼灸は存在しないのではないかと受け取られたとすれば、日本側の真意が伝わらなかったことになる。

今、ISOで中医鍼灸を世界標準とするような動きが垣間見られるが、そうなれば世界の伝統医療はひとつになってしまう。世界共通の伝統医療は果たして存在しうるのか、もしそうなればもはや伝統医療ではなくなってしまふ。そうならないようにするためにも他国の伝統医療を尊重しつつ、交流を通して自国の伝統医療を進化発展させていくことこそが重要であることを日本鍼灸の診療技術と共にその基盤を成している視点や思想を発信すべきである。私が基調講演の中で「グローバルな日本鍼灸」を強調し、日本鍼灸こそが「世界モデル」であることを力説したのはそのためである。

伝統医療といえどもサイエンスが必要である。サイエンスとしてのグローバリゼーション(文明)とアートとしてのローカリゼーション(文化)、この二つを融合したグローカリゼーションによる伝統医療こそが持続可能な伝統医療である。そのモデルが日本鍼灸であることを世界に普及させることが我が国の鍼灸界に課せられた最大の課題であると考えられる。

南港ハピスタ + 公園でからだにいいこと DAY



2016年11月23日(水・祝)に南港中央野球場で「南港ハピスタ+公園でからだにいいことDAY」イベントが開催され、大阪府鍼灸マッサージ師会は健康セミナーを担当。マッサージブースも設置し、参加府民の皆様に体験していただきました。

本イベントは、ワークショップ・飲食・セミナーを開催し、スロージョギング、ノルディックウォーキング、ヨガ、太極拳など、からだにいい体験を通じ、府民の健康に対するきっかけづくりを目指したイベントです。大人も子供も楽しく参加して健康になる「からだにいいことDAY」は大阪発、公園からの健康づくり推進グループが共催。大阪府鍼灸マッサージ師会は、公益事業の一環として、「健康おおさか21」や「すこやか大阪21」の取り組みを推進しています。



大阪府東洋療法協同組合

大阪府鍼灸マッサージ師会の会員の経営をサポート

● 鍼灸マッサージ師の専門研修・セミナー

● 使いやすい無料レセプトシステム



各種専門領域セミナー開催

内部審査会でレセプト点検、返戻を防止しています。



- 医療衛生材料の共同購買
- ホームページ・名刺作成
- 施術所リフォーム
- 組合員の福利厚生

〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町2丁目10番5号
大阪府鍼灸マッサージ会館2F



TEL 06-6624-3332



URL www.otrk.osaka.jp

発行日 2016年12月1日 発行人 伊藤久夫 編集・発行所 公益社団法人 大阪府鍼灸マッサージ師会総務部
〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町2-10-5 (大阪府鍼灸マッサージ会館) TEL 06-6624-3331 FAX 06-6624-5141